

図 2※ 北海道駒ヶ岳 最近の火山活動経過図（1995 年 1 月～2007 年 7 月）↑印は噴火

- ・昭和 4 年火口では 2003 年 9 月以降 10～50m 程度の噴煙が時々観測されています。
- ・昭和 4 年火口の火口温度は、2002 年以降緩やかな上昇傾向が認められていましたが、2006 年秋頃からはほぼ横ばいの状況が続いています。

1) 赤外放射温度計は、物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。

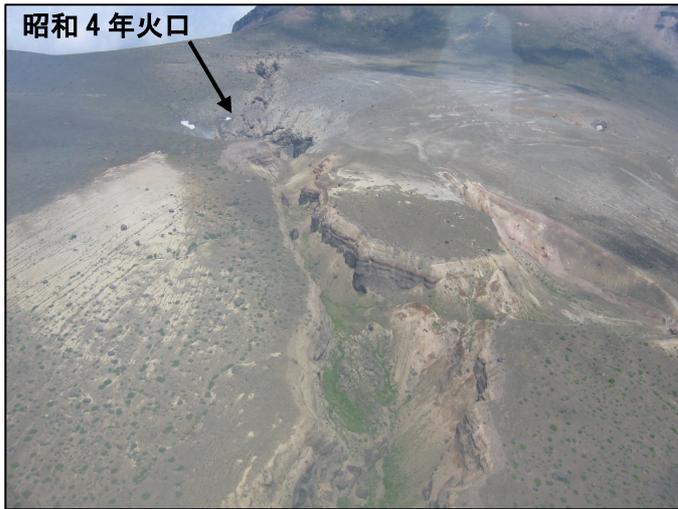


図3 北海道駒ヶ岳 昭和4年火口付近の状況  
(2007年7月2日 図4 矢印方向から撮影)

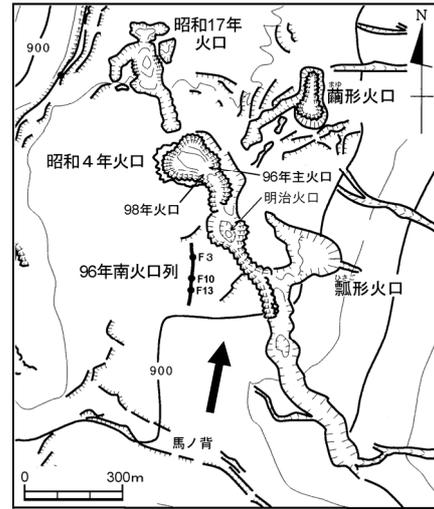


図4 北海道駒ヶ岳 山頂火口周辺図

表1 北海道駒ヶ岳 地震・微動の月回数（A点：図5のKOMA、剣ヶ峯東：KGMH）

2006～2007年	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
A点地震回数	1	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	1
剣ヶ峯東地震回数	5	2	11	25	3	2	1	4	1	2	0	3
A点微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

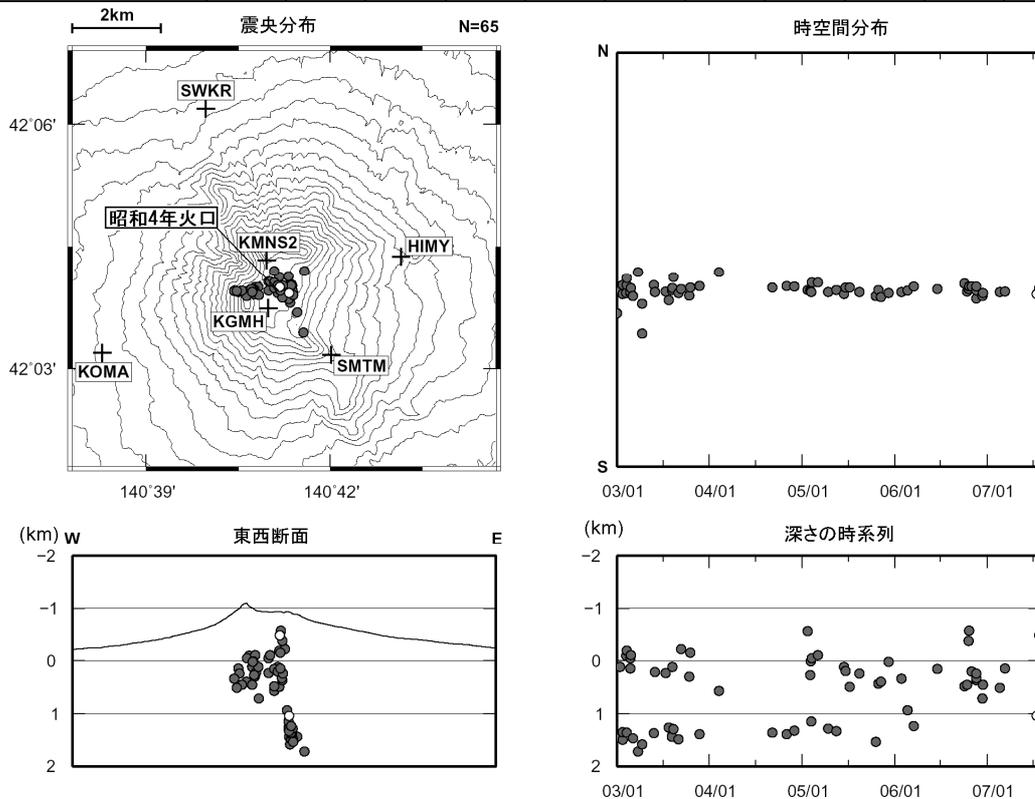


図5 北海道駒ヶ岳の震源分布図（2003年1月～2007年7月、+は地震観測点）  
●印は今期間（2007年7月）の震源 ○印は2003年1月～2007年6月の震源  
・これまでに求まった震源は山頂火口原直下の浅い所（山頂から深さ約1～3km付近）に分布しています。今期間に求まった震源もこの領域内に分布しています。

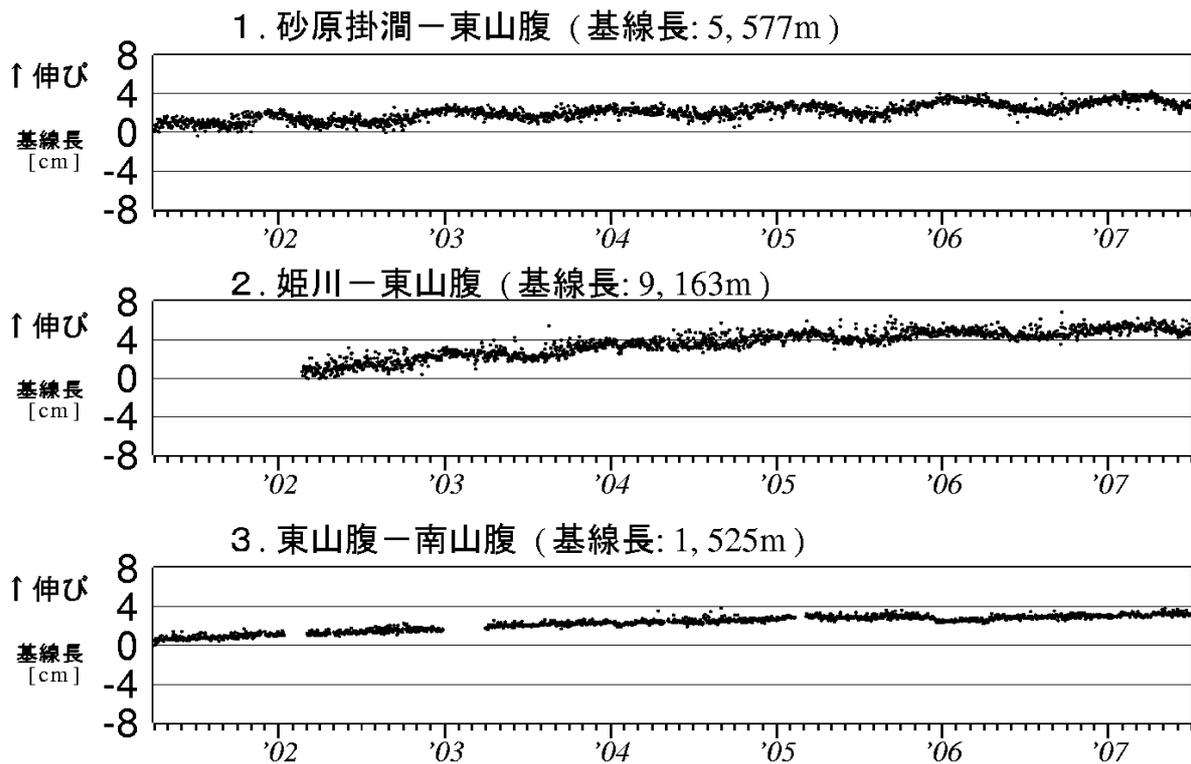


図6 北海道駒ヶ岳 GPS連続観測による基線長変化（2001年4月～2007年7月）

グラフの空白部分は欠測

- ・GPS連続観測では季節変動の影響も見られますが、わずかな山体膨張を示す基線長の伸びの傾向が引き続き認められています。
- ・図6の1～3は、図7のGPS基線①～③に対応しています。

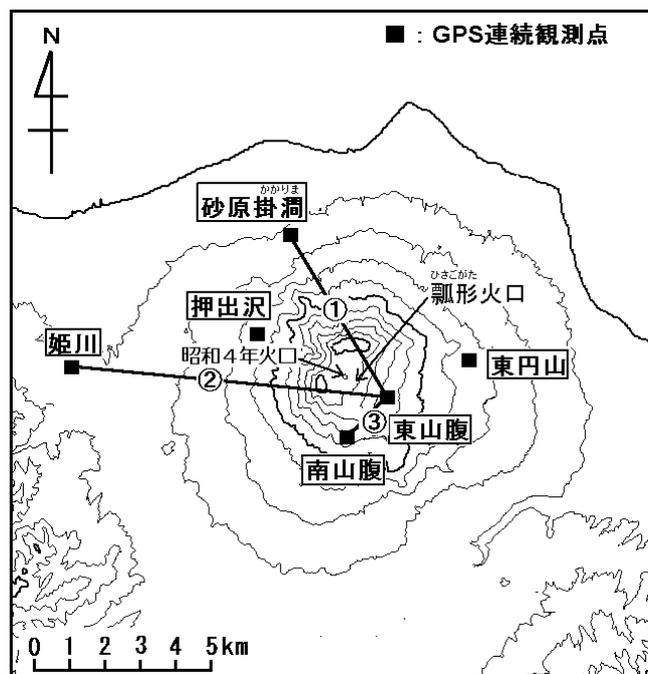


図7 北海道駒ヶ岳 GPS連続観測点配置図